



## 2024年度予算決定

12月22日、政府が2024年度予算案の閣議決定を行いました。

そのうち、国交省の予算の西九州新幹線長崎ルート分は残工事費が減少し、前年度より36億円少ない64億円が配分され、開業区間での騒音対策工事などに充てられる見通しとなっています。

また、新鳥栖～武雄温泉間における環境影響評価の関連経費の計上は、国交省と佐賀県の協議が難航し、着工の目処が立っていないことにより、前年度に引き続き見送られることとなりました。

## 10ヶ月ぶりの協議開催

12月28日、新鳥栖～武雄温泉間の整備方式を巡って、佐賀県と国交省の協議が佐賀県庁で行われました。

佐賀県の南里隆副知事は、未着工区間が残った現状について、「地元で一から議論して合意形成を図る必要がある。長崎、佐賀両県が話をして、その後、JR九州と鉄道局にも加わってもらうイメージである。」と話したとのこと。

このことに対し、国交省の平嶋隆司鉄道局次長は「持ち帰って対応を考える。」と答えたとのこと。

また、ルートについては、佐賀駅経由が最適であるとの認識を示した国交省に対し、佐賀県側は、「佐賀駅を通るフル規格は考えられない。」と改めて否定し、佐賀空港や有明海沿岸道路と連携する新たなルートは「議論する価値がある。」と伝え、財源や在来線の問題に関する提案や進展はありませんでした。

## 新ルート案浮上か

1月19日、福岡県の久留米商工会議所の本村康人会頭が同会議所の新年祝賀会において、西九州新幹線の未整備区間について、佐賀空港北側を通して久留米駅を経由する新ルート案の実現に向けて、今後、福岡県やJR九州などに働きかけていく考えを示しました。

本村会頭は、新鳥栖駅ではなく久留米駅につなぐ案を念頭に、「新幹線が来るというチャンスがあれば、久留米は間違いなく素晴らしいまちになる。県南のいろんな会頭などと話し合い、東京にも行って政治家と話し合って、何とか久留米に持ってくる努力をしたい。」と述べたとのこと。

このルートについて、JR九州の古宮洋二社長は1月25日の記者会見で、「遠回りになって時間がかかるうえ、運賃が高くなる。」と述べ、福岡県の服部誠太郎知事は1月30日の定例記者会見において、「国や佐賀県に確認したが、現段階では検討の俎上に上がっておらず、私から申し上げるべき段階にない。」と述べました。

## 地元での合意形成へ

佐賀県は1月23日、新鳥栖～武雄温泉間について、長崎県の馬場裕子副知事と佐賀県の南里隆副知事が1月18日に非公開で会談したと発表しました。

会談では、昨年12月28日に南里副知事が国交省幹部と面会した際の内容を説明し、「話をしたいことがあれば、いつでも応じる。」と馬場副知事に伝えたとのこと。

## 要望活動実施

2月1日、長崎県庁において、大石賢吾知事へ新幹線フル規格の早期実現に向けた要望活動を実施しました。

会長の園田裕史市長を始め、総勢17名で参加し、「全線フル規格による早期整備」や「車両基地の活用に対するJR九州への働きかけ」、「新大村駅への全便停車に向けたJR九州への働きかけ」を要望しました。

大石知事は、「国やJR九州との協議で地元の声も併せて伝えていく。」と応じ、新大村駅への全便停車については、「利用客を増やしていくことが一番の材料である。」と答えました。

また、大石知事は昨年12月に開催された与党検討委員会についても触れ、「様々な動きが始まっており、フル規格化の早期実現を期待している。佐賀県と対話を重ねていく。」と答えました。

### 要望

- 一、関西圏との直通運行を可能にし、武雄温泉～長崎間のインフラが最大限に活かされる「全線フル規格」による整備の早期実現をお願いします
- 一、西九州新幹線で唯一の新幹線車両基地を新たな地域資源として活用するための配慮をJR九州に働きかけていただきますようお願いします
- 一、部分開業となった西九州新幹線の開業効果を高めるため、武雄温泉～長崎の周遊を促す取組を進めるとともに、長崎空港と連携した高速交通ネットワーク拠点である新大村駅への全線停車をJR九州に働きかけていただきますようお願いします

